

## 平成22年度第9回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会

日時：平成23年1月12日（水） 18:00～19:20

場所：琉球大学医学部附属病院 がんセンター

構成員：8名

出席者：6名

国吉 秀樹（中央保健所）、照屋 淳（医師会病院）、宮里 浩（那覇市立）、佐村 博範（琉大病院）、  
下地 英明（琉大病院）、仲本 奈々（琉大病院）

陪席者：呉屋 葉子（琉大病院がんセンター）

## [報告事項]

1. 平成22年度第3回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会5大がんクリティカルパス運用ワーキンググループ議事要旨（資料1）  
平成22年度第3回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会5大がんクリティカルパス運用ワーキンググループ議事要旨が承認された。
2. 5大がん地域連携クリティカルパス事業の申し込みについて（資料2）  
事務局より、新たに1病院が追加されたことが報告された。
3. 沖縄県がん診療連携協議会での部会報告について  
事務局より、協議会での部会報告・審議事項については部会長に発表して頂くよう依頼があった。  
尚、部会長が出席出来ない場合は、副部会長にして頂くよう依頼があった。

## [協議事項]

1. 今年度事業計画の評価について（資料3）  
事務局より、今年度事業計画の評価を作成したことが報告され、以下の事が決定した。
    - ・原案通り、協議会資料にすることとなった。
  2. 次年度の事業計画（案）について（資料4）  
事務局より、次年度の事業計画（案）を作成したことが報告され、以下の事が決定した。
    - ・経過観察以外のクリティカルパスの作成を5大がん追加する。
    - ・前立腺がんの事業計画を5がんの事業計画と一緒にする。
    - ・研修会の開催回数を変更する。
  3. 次年度の予算（案）について（資料5）  
事務局より、次年度の予算（案）を作成したことが報告され、以下の事が決定した。
    - ・今まで経費は琉大病院で負担していたが、次年度からは研修費等の経費を各拠点病院・支援病院でも負担して頂くこととなった
  4. かかりつけ施設が受け入れ可能な範囲を把握するためにアンケート調査（資料6）  
事務局より、かかりつけ施設が受け入れ可能な範囲を把握するためのアンケートを作成したことが報告され、以下の事が決定した。
    - ・5大がん以外に前立腺がんを追加。診療可能範囲は前立腺の先生に確認する
    - ・その他（ ）を加える
    - ・これから申し込みを行う施設にその都度アンケートを行う。
    - ・これまで申し込みのある施設に対してのみ一斉にアンケートを行う（必ず医師会を通す）
- また、相談支援部会より、相談支援部会が行う「がんに関する医療機関情報調査票」と地域ネットワーク部

会が行う「連携パスを使用した連携可能な診療範囲のアンケート」をすり合わせできないかと依頼があったが、以下の理由でアンケート調査は別々に行う事となった。

**【理由】**

- ① 地域ネットワーク部会のアンケートは、施設で対応できる治療法ではなく、対応できる治療法の中で、5大がん連携パスを用いた地域連携を行えるかを問うもので、趣旨が異なってしまうのではないかと。  
(例えば、治療は行っているが、連携パスは使いたくないという施設もあるはず)
- ② 今回アンケートの対象となるのは、5大がんパス事業に申し込みのある47施設のみである。
- ③ 47施設以外の施設は、5大がん事業の申し込みの際に行うようにする。
- ④ 5大がん連携パス関連のアンケートや文書はすべて沖縄県医師会と共同で行っている。  
連携パスに関してはこのルートは維持した方が混乱はすくないのではないかと。

6. 次回の開催日程について

次回の地域ネットワーク部会、運用ワーキンググループの開催は、以下の通り決定した。

平成22年度第10回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会

次回 平成23年2月2日(水) 18:00～

場所：がんセンター

平成22年度第4回5大がん地域連携クリティカルパス運用ワーキンググループ

次回 平成23年3月2日(水) 19:00～

場所：管理棟3階 大会議室

## 平成22年度第10回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会

日時：平成23年2月2日（水） 18:00～19:20  
場所：琉球大学医学部附属病院 がんセンター  
構成員：8名  
出席者：3名  
佐村 博範（琉大病院）、増田 昌人（琉大病院）、仲本 奈々（琉大病院）  
陪席者：呉屋 葉子（琉大病院がんセンター）

## [報告事項]

1. 平成22年度第9回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会議事要旨（資料1）  
平成22年度第9回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会議事要旨が承認された。
2. 5大がん地域連携クリティカルパス事業の申し込みについて（資料2）  
事務局より、新たに専門施設に1病院が追加されたことが報告された。
3. 次年度事業計画について（資料3）  
事務局より、次年度事業計画が報告され、承認された。
4. 次年度予算（案）について（資料4）  
事務局より、次年度予算案について、離島の委員の旅費を経費に入れてはどうかと意見があり、WGの協議事項にすることとなった。

## [協議事項]

1. 平成22年度5大がん地域連携クリティカルパス研修会について（資料5）  
3月10日、佐村委員が沖縄県医師会館で研修会を行うことが決定した。
2. 沖縄県がん診療連携協議会のホームページ掲載について（資料6）  
ホームページに、適用症例を掲載することが決定した。
3. 平成22年度第4回5大がん地域連携クリティカルパス運用ワーキンググループ協議事項について（資料7）

報告事項は、適用症例数を報告することとし、協議事項は以下の通りとなった。

- ①次年度の研修会の開催方針について
  - ②離島の委員の旅費負担について
  - ③運用WGの開催回数について
  - ④地域連携パスの活用のための方策について
4. がん診療ネットワーク構築のための渉外活動について  
事務局より、前回のシエントミーティングで、連携の対象となる症例があっても、紹介元が沖縄県5大がん地域連携クリティカルパス事業のかかりつけ医施設として登録していない施設がある。連携パスによる運用症例数を増やすために、院内の各疾患の担当医に日常的に連携している3～5施設を確認し、その施設に対して連携パスの趣旨説明と連携パスを用いた連携のお願いを行ってはどうかと意見があったことが報告された。  
そこで、佐村委員が日常的に連携している施設に対して、連携パスを行うことが決定した。  
その施設が、地域連携クリティカルパス事業のかかりつけ医施設として登録されていなければ、事務局より、かかりつけ医施設になって頂くよう依頼をかけることとなった。

5. 運用WGの開催回数について

事務局より、運用WGの開催を年4回の開催から、年2回にしてはどうかと意見があり、WGの協議事項とすることとなった。

6. 次回の開催日程について

次回は平成22年3月2日（水）に平成22年度第4回5大がん地域連携クリティカルパス運用ワーキングを行うことが承認された。

平成22年度第4回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会  
5大がんクリティカルパス運用ワーキンググループ議事要旨

日時：平成22年3月2日（水） 19:00～20:30

場所：琉球大学医学部附属病院 管理棟3階 大会議室

構成員：40名

出席者：27名

上地 博之（北部地区医師会）、平良 豊（浦添市医師会）、喜納 美津男（那覇市医師会）照屋 淳（医師会病院）、仲村 実和子（医師会病院）、上田 真（中部病院）、古謝 和美（中部病院）、宮里 浩（市立病院）、友利 寛文（市立病院）、宮国 孝男（市立病院）、外間 尚美（市立病院）、佐久川 廣（ハートライフ病院）、長嶺 信治（那覇西クリニック）、池村 富士夫（同仁病院）、宇良 正一郎（同仁病院）、我如古 幸蔵（南部徳洲）、大嶺 靖（沖縄赤十字）、志良堂 清憲（沖縄赤十字）、下地 英明（琉大病院）、白石 祐之（琉大病院）、照屋 孝夫（琉大病院）、佐村 博範（琉大病院）、國仲 弘一（琉大病院）、新垣 久美子（琉大病院）、武富 孝子（琉大病院）、増田 昌人（琉大病院）仲本 奈々（琉大病院）  
陪席者：呉屋 葉子（がんセンター）

1. 平成22年度第3回5大がん地域連携パス運用ワーキンググループ議事要旨（資料1）  
平成22年度第3回5大がん地域連携パス運用ワーキンググループ議事要旨が承認された。
2. 5大がん地域連携クリティカルパス事業の申し込みについて（資料2）  
新たに、専門施設に1病院、沖縄県立南部医療センター・こども医療センターが追加されたことが報告された。
3. かかりつけ施設が受け入れ可能な範囲を把握するためのアンケート調査について  
医師会と共催で、かかりつけ施設にアンケート調査を行うよう進めていることが、報告された。
4. 各施設での地域連携パス適用事例について  
那覇市立の宮里委員より、現在パス適用事例が19例あり、内訳としては、乳がん8名、大腸癌6名、胃がんが5名であることが報告された。消化器に関しては、適用となった患者さんには、もともと通院していた医院ではなく、連携先の医院で診て頂くようにしていることが報告された。
5. 県民健康フォーラムでの発表、市民公開講座での発表について  
宮里委員、増田委員より、県民フォーラムと市民公開講座でクリティカルパスについて医療者および一般向けに広報を行ったことが報告された。
6. 医師会HPに5大がん地域連携クリティカルパス協力医療機関の募集・応募方法の掲載について  
6つの医師会HPに沖縄県5大がん地域連携クリティカルパス協力医療機関の募集・応募方法を掲載したことが報告された。

[協議事項]

1. 次年度の研修会の開催方針について  
各地区や希望される医療機関で、年に10回を目標にがん地域連携クリティカルパス研修会を企画開催する。今まで通り、拠点病院、支援病院、医師会で研修会を行うことに加えて、申し込みがある専門施設にも、院内研修会をしていただくよう依頼があった。

## 2. 地域連携パスの活用のための方策について

琉大でパスが運用されていない理由について、2010年4月～12月までの下部消化管発癌症例で検証を行った。

パスにのらない原因としては、紹介元のクリニックが癌の診療をしていないこと、要化療、準備不足、稀な症例、当院通院中、パス不足、かかりつけ医なし、などが挙げられた。

東京などの都心部はともかく、パスの様式に書き込む手間を考えると、自分たちの病院で診た方がいいのではないかと意見があり、佐村委員より、クリティカルパスは患者さんに安全で質の高い医療を提供することと、専門医とかかりつけ医（開業医など）と治療経過を共有するためのツールとしてあるものであり、すべての患者さんに適用する必要はないが、患者のニーズに合わせて適用して欲しいと依頼があった。

また、診療計画表・経過表に毎月記載するところがあるが、その通り毎月検査して記載しないといけないわけではなく、便宜上枠を設けている事が報告された。

実際にパスを適用してみて、今の様式に不便などを感じたら、作成ワーキングで改訂を行うことになった。

## 3. 私のカルテと療養手帳の済み分けについて

増田委員より、患者必携事業について説明があった。

がん患者の支え事の助けとなることを目指して、①がんになったら手に取るガイド、②わたしの療養手帳、③地域の療法情報、3点セットを作成したことが報告された。

私のカルテと療養手帳の違いは、私のカルテは患者さん自身が記載する所もあるが、主に専門施設、かかりつけ施設の主治医が記載することに対し、療養手帳は患者さん本人が記載して持ち歩くものである。今後、療養手帳は一般的にどのがんでも適用できるようにし、私のカルテはがんごとに特化したものにするよう計画していることが報告された。

## 4. 離島の委員の旅費負担について

離島の委員には、これまで地域医師会の予算で参加して頂いていたが、今後、WGに参加するための飛行機代は部会の予算で負担してはどうかと意見があり、承認となった。

## 5. 運用WGの開催回数について

今後は各施設での取り組みが重要なことから、年に4回の運用WGの開催を年に2回に変更してはどうかと意見があり、承認された。

## 6. 次回の開催について

事務局より、次回の5大がんクリティカルパス運用ワーキングの開催は9月7日（水）を予定していることが報告された。

## 平成23年度第1回沖縄県がん診療連携協議会地域ネットワーク部会

日時：平成23年4月6日（水） 18:00～19:30  
場所：琉球大学医学部附属病院 がんセンター  
構成員：7名  
出席者：名  
          佐村 博範（琉大病院）、照屋 淳（医師会病院）増田 昌人（琉大病院）、仲本 奈々（琉大病院）  
陪席者：呉屋 葉子（琉大病院がんセンター）

## 〔報告事項〕

1. 平成22年度第4回5大がん地域連携パス運用ワーキンググループ議事要旨（資料1）  
平成22年度第4回5大がん地域連携パス運用ワーキンググループ議事要旨が承認された。
2. 国吉部会長の地域ネットワーク部会委員辞退と新部会長について  
国吉秀樹部会長が異動のため、部会を辞退することになった。新部会長は佐村博範委員に決定した。

## 〔協議事項〕

1. 地域ネットワーク部会開催回数について  
事務局より、今後は各施設での取り組みが重要なことから、毎月開催している部会を2ヶ月に1回にしてはどうかと意見があり、承認された。
2. 次年度事業計画の見直しについて  
事務局より、先月、医療政策の計画・評価の専門家やコーディネーターを招き（ロジックモデルを用いた）次年度事業計画に対する検討会を行ったことが報告された。  
検討会での意見も踏まえて作成した事業計画書の見直しを行い、次年度の事業計画は以下の通りとなった。  
<目標1>  
『医療者、行政などから医療機関の機能や役割が見え、医療資源が適切に有効活用される』  
<施策>  
医療者、行政などすべてに対する情報不足の解消するために、2011年9月までに全ての病院と保健医療計画による専門的及び一般的にがん診療を行っている施設に医療資源についてのアンケート調査を行う。  
また、八重山・宮古・北部で患者の実態調査を行い、2012年3月までに県と協議会のHPに情報を公開し、全ての病院に冊子を配付する。  
<目標2>  
『地元の施設にかかる患者の増加』  
<施策>  
拠点病院専門外来集中化解消するため、がん地域連携クリティカルパスの運用、改訂、評価・経過観察以外のパスの作成・クリティカルパスの種類（疾患やステージ別）を増やし、活用の促進を図り、2012年3月までに30人、2013年3月までに130人沖縄県内でがん地域連携クリティカルパスを適用する。
3. 次回開催日程について  
次回の地域ネットワーク部会は、平成23年5月11日（水）に行うことが決定した。